

PlateSpin Migrate 12.2.1

リリースノート

2018年1月



PlateSpin Migrate 12.2.1には、新機能と機能の改善が含まれており、既知の問題もいくつか解決されています。サービスパックは累積的であり、PlateSpin Migrate 12.2 リリース以降にリリースされたすべてのパッチおよびホットフィックスが含まれています。

この製品のマニュアルは、PlateSpin Migrate 12.2.1 マニュアルの Web サイト (<https://www.netiq.com/documentation/platespin-migrate-12-2-1>) に HTML 形式と PDF 形式で用意されています。

この製品には、文書化されていないユーティリティが付属しています。これはテクニカルサポートチームが問題の診断または解決を行う際に使用します。

- ◆ 1 ページのセクション 1 「新機能」
- ◆ 9 ページのセクション 2 「非推奨となった機能」
- ◆ 10 ページのセクション 3 「既知の問題」
- ◆ 18 ページのセクション 4 「解決された問題」
- ◆ 19 ページのセクション 5 「PlateSpin Migrate のインストールまたは更新」
- ◆ 19 ページのセクション 6 「ライセンス情報」
- ◆ 20 ページのセクション 7 「以前のリリース」
- ◆ 20 ページのセクション 8 「Micro Focus への連絡方法」
- ◆ 20 ページのセクション 9 「保証と著作権」

1 新機能

PlateSpin Migrate 12.2.1 には、複数の新機能および機能の改善が含まれています。

これらの改善の多くは、お客様から直接ご提案いただいたものです。皆様の貴重なお時間とご意見に感謝いたします。弊社の製品が皆様のご期待に添えるよう、引き続きお力添えを賜りたく存じます。フィードバックは当社オンラインコミュニティ「Micro Focus Forums」の [PlateSpin Migrate フォーラム](https://forums.novell.com/forumdisplay.php/1337-Platespin-Migrate) (<https://forums.novell.com/forumdisplay.php/1337-Platespin-Migrate>) からお寄せください。こちらのコミュニティには、製品情報、ブログ、役立つリソースへのリンクなども掲載されています。

- ◆ 2 ページのセクション 1.1 「再ブランディング」
- ◆ 2 ページのセクション 1.2 「パフォーマンス」
- ◆ 2 ページのセクション 1.3 「サポートされる構成」
- ◆ 6 ページのセクション 1.4 「拡張された設定オプション」
- ◆ 7 ページのセクション 1.5 「PlateSpin Migration Factory」
- ◆ 8 ページのセクション 1.6 「Migrate Agent ユーティリティ」

- ◆ [8 ページのセクション 1.7 「PlateSpin ISO」](#)
- ◆ [9 ページのセクション 1.8 「PlateSpin 環境設定パラメータ」](#)
- ◆ [9 ページのセクション 1.9 「PlateSpin Migrate の前提条件のインストールスクリプト」](#)

1.1 再ブランディング

PlateSpin Migrate 12.2.1 は、Micro Focus 製品として再ブランディングされました。この再ブランディングによって、製品機能、インストールパス、ファイル名は影響を受けません。既存のライセンスも有効なままです。

1.2 パフォーマンス

PlateSpin Migrate 12.2.1 では、次のコンポーネントのパフォーマンスが改善されました。

- ◆ データ転送：最適化された転送時のハートビート機能およびログ記録
- ◆ Web インタフェース：ワークロード設定タスク

1.3 サポートされる構成

PlateSpin Migrate 12.2.1 では、ソースワークロードとターゲットコンテナに対するサポートが強化されています。

- ◆ [2 ページのセクション 1.3.1 「サポートされる Windows のワークロード」](#)
- ◆ [3 ページのセクション 1.3.2 「サポートされる Linux のワークロード」](#)
- ◆ [3 ページのセクション 1.3.3 「サポートされるターゲットプラットフォーム」](#)
- ◆ [5 ページのセクション 1.3.4 「Windows クラスタマイグレーション用の BBT ドライバのサポート」](#)
- ◆ [5 ページのセクション 1.3.5 「UEFI のサポート」](#)
- ◆ [5 ページのセクション 1.3.6 「MPIO のサポート」](#)
- ◆ [5 ページのセクション 1.3.7 「FCoE のサポート」](#)
- ◆ [6 ページのセクション 1.3.8 「拡張された VLAN のタグ付け」](#)

1.3.1 サポートされる Windows のワークロード

PlateSpin Migrate 12.2.1 では、ターゲットプラットフォームベンダーによりサポートされている、次の Windows ワークロードのマイグレーションに関するサポートが追加されています。

プラットフォーム	備考
Microsoft Windows Server 2016	VMware コンテナへのマイグレーションには、VMware 6.0 以降が必要です。
Microsoft Windows Server 2016 クラスタ	VMware 6.0 以降を実行している VMware コンテナへのマイグレーションに対してのみサポート。

関連項目：

- ◆ [Windows クラスタマイグレーション用の BBT ドライバのサポート \(FC SAN のみ\)](#)
- ◆ [UEFI のサポート](#)

- ◆ [MPIO のサポート](#)
- ◆ [FCoE のサポート](#)

サポートされる Windows ワークロードに関する詳細および注意事項については、『ユーザガイド』の「[サポートされる構成](#)」を参照してください。

1.3.2 サポートされる Linux のワークロード

PlateSpin Migrate 12.2.1 では、次の Linux ワークロードのサポートが追加されています。プリコンパイル済みの blkwatch ドライバについては、『ユーザガイド』の「[ディストリビューションのリスト](#)」を参照してください。

プラットフォーム	バージョン	備考
Red Hat Enterprise Linux (RHEL)	6.9 および 7.3	PlateSpin Migrate では、Red Hat Enterprise Linux 7.3 上の XFS バージョン 5 (v5) ファイルシステムと、RHEL 7.3 に基づいたディストリビューションがサポートされていません。
Oracle Linux	RHEL に基づいたディストリビューション。	プリコンパイル済みの blkwatch ドライバは、標準カーネルおよび RHEL 6.7 以降用の Unbreakable Enterprise Kernel (UEK) で利用できます。
CentOS	RHEL に基づいたディストリビューション。	RHEL でプリコンパイル済みの blkwatch ドライバを使用します。

- ◆ 準仮想化されたカーネルおよび標準カーネルの両方を備え、Citrix XenServer または KVM 上で実行されている、準仮想化された Linux ソースワークロードは、完全に仮想化されたゲストとしてターゲットプラットフォームにマイグレートできるようになりました。ただし、Xen カーネル用のブロックベースのドライバは手動でコンパイルする必要があります。
- ◆ LVM ローディスクボリュームは、Linux ワークロード上のソース設定と同じ様にサポートされています。

関連項目：

- ◆ [UEFI のサポート](#)
- ◆ [MPIO のサポート](#)
- ◆ [FCoE のサポート](#)

サポートされる Linux ワークロードに関する詳細および注意事項については、『ユーザガイド』の「[サポートされる構成](#)」を参照してください。

1.3.3 サポートされるターゲットプラットフォーム

PlateSpin Migrate 12.2.1 では、次のターゲットプラットフォームのサポートが追加されています。サポートの詳細については、『ユーザガイド』の「[サポートされる構成](#)」を参照してください。

ターゲット仮想化プラットフォーム

サポートされるターゲット仮想化プラットフォームに関する詳細および注意事項については、『ユーザガイド』の「[サポートされるターゲット仮想化プラットフォーム](#)」を参照してください。

◆ VMware

- ◆ VMware vCenter および ESXi 6.5
- ◆ VMware vCenter および ESXi 6.0 U3
- ◆ VMware vSAN 6.2
- ◆ ターゲット Linux ワークロード用の複数の NIC (以前は Windows 用にサポート)

注 : VMware 6.0 以降で利用可能な次のデータストアタイプはサポートされていません。

- ◆ 仮想ボリューム
- ◆ NFS 4.1
- ◆ vFlash

◆ Microsoft Hyper-V

- ◆ Windows Server 2012 および 2012 R2 (自動または半自動マイグレーション用)
- ◆ [拡張された VLAN のタグ付け](#)

◆ KVM

- ◆ Virtio デバイス

◆ Xen

- ◆ SUSE Linux Enterprise Server 11 SP4

◆ Citrix XenServer

仮想マシンをブートするための LRD として、SUSE Linux Enterprise Server 11 SP3 用の PlateSpin ISO を使用します。Citrix XenServer 6.5 以前では、SLES 11 SP4 がサポートされていません。

ターゲットクラウドプラットフォーム

サポートされるターゲットクラウドプラットフォームに関する詳細および注意事項については、『ユーザガイド』の「[サポートされるターゲットクラウドプラットフォーム](#)」を参照してください。

◆ Amazon Web Services

- ◆ Windows ライセンスアクティベーションのサポート
- ◆ AWS での 3 つの PlateSpin Replication Environment (RPE)
 - ◆ PlateSpin Replication Environment - Linux (ライセンス持ち込み (BYOL))
 - ◆ PlateSpin Replication Environment - Windows
 - ◆ PlateSpin Replication Environment - Windows (BYOL)

◆ Microsoft Azure

- ◆ 独立した Azure China Cloud
 - サーバレベルで Azure Cloud グローバルまたは Azure China Cloud を指定します。『ユーザガイド』の「[Azure Cloud 用のターゲット IaaS 環境の設定](#)」を参照してください。
- ◆ 最大 4TB (4092GB) の大きなディスク

- ◆ **VMware vCloud Director**

- ◆ バージョン 5.6.x

1.3.4 Windows クラスタマイグレーション用の BBT ドライバのサポート

PlateSpin Migrate 12.2.1 には、元のアクティブノードの増分レプリケーション用にドライバベースブロックベースの転送サポートが追加されています。BBT ドライバを使用するには、セットアップ中にノードを再起動する必要があります。ファイバチャネル SAN で共有ストレージを使用する場合のみ、BBT ドライバを使用します。『ユーザガイド』の「[クラスタ用のブロックベースの転送](#)」を参照してください。

警告：共有 iSCSI ドライブを使用するクラスタで SingleNodeBBT を使用しないでください。クラスタが使用不能になります。

1.3.5 UEFI のサポート

UEFI ベースの Windows および Linux ソースワークロードのマイグレーションは、すべてのターゲットプラットフォームでサポートされています。Amazon Web Services、Microsoft Azure、および VMware vCloud Director の各ターゲットクラウドプラットフォームの場合、ターゲットワークロードは UEFI から BIOS に変換されます。他のプラットフォームの場合、ターゲットプラットフォームベンダーのサポートに従って、ターゲットワークロードは、UEFI または BIOS として設定されます。

1.3.6 MPIO のサポート

PlateSpin Migrate 12.2.1 では、SAN ディスクのみを備えた次のワークロード上のファイバチャネル (FC) SAN に対する Multipath I/O (MPIO) がサポートされています。ワークロードは SAN ディスクからブートする必要があります。MPIO では、ローカルディスクと SAN ディスクの混在はサポートされていません。

- ◆ Windows Server 2012 R2
- ◆ Windows Server 2012 R2 クラスタ
- ◆ Windows Server 2008 R2
- ◆ Red Hat Enterprise Linux 7.2

『ユーザガイド』の「[Multipath I/O](#)」を参照してください。「[PlateSpin ISO](#)」も参照してください。

1.3.7 FCoE のサポート

PlateSpin Migrate 12.2.1 では、次のワークロードの P2P および P2V マイグレーション用の Fibre Channel over Ethernet (FCoE) がサポートされています。

- ◆ Windows Server 2012 R2
- ◆ Windows Server 2008 R2
- ◆ SUSE Linux Enterprise Server 11 SP4

『ユーザガイド』の「[FCoE SAN](#)」を参照してください。「[PlateSpin ISO](#)」も参照してください。

1.3.8 拡張された VLAN のタグ付け

PlateSpin Migrate 12.2.1 Client では、Hyper-V サーバ上でホストされるターゲットマシンで使用される仮想ネットワーク ID を指定できます。このリリースでは、次の操作での VLAN タグ付けのサポートが追加されています。

- ◆ 一時 (制御取得) ネットワーキング
- ◆ 仮想ネットワークインタフェースのマイグレーション後のネットワーキング
- ◆ 仮想ターゲットへのサーバの同期

レプリケーションおよび同期ジョブの準備中に VLAN タグを編集することもできます。

1.4 拡張された設定オプション

PlateSpin Migrate 12.2.1 では、Migrate Web インタフェースおよび Migrate Client でのマイグレーションの設定オプションがいくつか追加されています。

1.4.1 AWS へのマイグレーション

- ◆ NIC 数 : NIC の追加または削除
- ◆ リージョンリストの更新
- ◆ 完全レプリケーション時のターゲット AWS インスタンス名の指定

『ユーザガイド』の「[Amazon Web Services へのワークロードの完全マイグレーションの設定](#)」を参照してください。

1.4.2 Azure へのマイグレーション

- ◆ Azure VPN 展開シナリオでプライベート IP アドレスのみを使用して、Azure でターゲットワークロード VM を設定する機能。
- ◆ 拡張された設定オプション：
 - ◆ [Azure リソースグループ] (新規または既存)
 - ◆ ターゲットワークロード設定 (カットオーバー用) の [ネットワーク接続]：
 - ◆ NIC の有効化 / 無効化。マイグレーション用に特定のソース NIC を除くすべてを無効にすることができます。
 - ◆ (オプション) NIC リソースグループはデフォルトで [Azure リソースグループ] に設定されています。NIC ごとに個別のリソースグループを指定することができます。
 - ◆ パブリック IP (VPN 以外の展開シナリオでのプライマリ NIC に必要)。
 - ◆ プライマリ NIC。
 - ◆ ターゲットワークロードテスト設定 (カットオーバーテスト用) の [ネットワーク接続]：
 - ◆ 使用可能な NIC は、カットオーバー用に選択される NIC と同じです。
 - ◆ (オプション) NIC リソースグループはデフォルトで [Azure リソースグループ] に設定されています。NIC ごとに個別のリソースグループを指定することができます。
 - ◆ パブリック IP (VPN 以外の展開シナリオでのプライマリ NIC に必要)。
 - ◆ プライマリ NIC。

- ◆ [クラウドインスタンスサイズ] メニューには、VM インスタンスごとに次の値が明示されま
す。[CPU]、[メモリ]、[最大 NIC]、[Maximum Data Disks (最大データディスク数)]、お
よび [プレミアムストレージのサポート]。
- ◆ [ボリューム] では、Azure で選択したクラウドインスタンスサイズで許可されている最大
ディスクサイズを満たすようにボリュームを選択解除することができます。
- ◆ [Services (or Daemons) to stop for Cutover with Incremental Replication (増分レプリケー
ションによるカットオーバーのために停止するサービス (またはデーモン))] では、カット
オーバー時にソースワークロードでサービスを停止することができます。
- ◆ 推奨されるリソース名では、新しいワークロードマイグレーション設定に対して、アンダース
コアの代わりにハイフンを使用します。

『ユーザガイド』の「[Microsoft Azure へのマイグレーション](#)」を参照してください。

1.4.3 VMware vCloud へのマイグレーション

- ◆ マイグレーション用に特定の NIC 以外のすべてを選択解除する機能

『ユーザガイド』の「[VMware vCloud Director へのマイグレーション](#)」を参照してください。

1.4.4 VMware へのマイグレーション

- ◆ マイグレーション用に特定の NIC 以外のすべてを選択解除する機能
- ◆ [Connect at Power On (電源オン時に接続)] するかどうかを指定する機能
- ◆ 半自動 (X2P) マイグレーションで、VMware 上の Windows ターゲット VM に VMware ツールをイ
ンストールする機能

『ユーザガイド』の「[VMware へのマイグレーション](#)」を参照してください。

1.4.5 任意のターゲットプラットフォームへのマイグレーション

- ◆ 依存および関連するカーネルサービスを同時に停止する機能は、自動および半自動変換で使用
可能です。Migrate Client および Migrate Web インタフェースで使用できます。

1.5 PlateSpin Migration Factory

PlateSpin Migrate 12.2.1 では、イベント通知および REST API が拡張された結果、PlateSpin
Migration Factory の PlateSpin Transformation Manager 1.1.1 と PlateSpin Migrate Connector 1.1.1
との統合が可能になりました。

- ◆ すべてのマイグレーションにおける状態変更イベントのイベントメッセージ (Client および
Web インタフェース) が購読者に発行されます。
- ◆ ワークロードリストでは、Migrate Client で設定され実行されるマイグレーションジョブに関す
る読み取り専用のステータスが Web インタフェースに表示されます。『ユーザガイド』の
「[Migrate Client で管理されるワークロードのステータス](#)」を参照してください。
- ◆ ワークロード設定データは PTM からアクセスできます。
- ◆ 検出データベースは PTM からアクセスできます。

PlateSpin Migrate 12.2.1 での Transformation Manager と Migrate Connector に対する主な拡張には
次の機能および機能改善が含まれます。

- ◆ PlateSpin Migrate サーバ上で実行される、対応する外部マイグレーションでインポートされるワークロードの状態変更イベントを追跡する機能。
- ◆ すべての検索、ナビゲーション、状態条件を含むページをブックマークする機能。
- ◆ ダッシュボードの拡張：
 - ◆ **ダッシュボード統計**：PTM ダッシュボード統計には、Migrate サーバ上で実行される、対応する外部マイグレーションでインポートされるワークロードが含まれます。
 - ◆ [発生内容] には、現在の日付、または指定された日付の主要なイベントが表示されます。ユーザは、今日作業を行うワークロードや後日のために準備しておくべきワークロードをすばやく認識できます。
 - ◆ [ブックマーク] では、ユーザの個人用ブックマークが表示されます。クエリの実行を繰り返したり複雑なクエリを実行することなく、お気に入りのページやダイアログに簡単に戻ることができます。リンクでは、ログインユーザの許可が引き継がれます。
 - ◆ [最近表示したもの] では、表示または編集アクション用にユーザが最近アクセスしたページおよびダイアログへのリンクが表示されます。ナビゲーションや複雑な検索条件を繰り返すことなく、特定の場所にすばやく戻ることができます。リンクでは、ログインユーザの許可が引き継がれます。

PlateSpin Transformation Manager マニュアルの Web サイト (<https://www.netiq.com/documentation/platespin-transformation-manager-1-1/>) を参照してください。

1.6 Migrate Agent ユーティリティ

PlateSpin Migrate 12.2.1 では、Linux 用の Migrate Agent ユーティリティが提供されています。Migrate Agent for Linux は、Migrate Web インタフェースと Migrate Client で実行される自動マイグレーションと連携動作します。半自動 (X2P) マイグレーションではサポートされていません。『ユーザガイド』の「[Linux 用の Migrate Agent ユーティリティ](#)」を参照してください。

PlateSpin Migrate 12.2.1 では、Migrate Web インタフェースのほか、Migrate Client で実行される自動マイグレーションをサポートするように Windows 用の Migrate Agent ユーティリティが拡張されています。半自動 (X2P) マイグレーションではサポートされていません。『ユーザガイド』の「[Windows 用の Migrate Agent ユーティリティ](#)」を参照してください。

1.7 PlateSpin ISO

このリリースでは、PlateSpin ISO は Linux RAMDisk (LRD) で SUSE Linux Enterprise Server 11 SP4 を使用しています。

- ◆ デフォルトファイルには、半自動 X2P マイグレーション用の Fibre Channel over Ethernet (FCoE) をサポートするためのドライバと機能が含まれています。サポートされるワークロードについては、「[FCoE のサポート](#)」を参照してください。
- ◆ MPIO ファイルには、半自動 X2P マイグレーション用の Multipath I/O をサポートするためのドライバと機能が含まれています。サポートされるワークロードについては、「[MPIO のサポート](#)」を参照してください。

SUSE Linux Enterprise Server 11 SP3 用の PlateSpin ISO は、SUSE Linux Enterprise Server 11 SP4 をサポートしないターゲット仮想化プラットフォームで使用できます。FCoE または MPIO はサポートされていません。

『ユーザガイド』の「[PlateSpin ISO イメージのダウンロード](#)」を参照してください。

1.8 PlateSpin 環境設定パラメータ

PlateSpin Migrate 12.2.1 には、PlateSpin 設定ツールのパラメータが追加されています。

- ◆ **Windows Cluster:** PlateSpin グローバル設定 WindowsClusterMode では、増分レプリケーション用のブロックベースのデータ転送方法を、ドライバなし (デフォルト) またはドライバベース (SingleNodeBBT) として指定します。詳細については、「[Windows クラスタマイグレーション用の BBT ドライバのサポート](#)」を参照してください。
- ◆ **Azure:** 次の Azure 設定では、PlateSpin Server がターゲットサブスクリプションを Azure グローバル環境、または独立した Azure China 環境でサポートするかどうかを決定します。
 - ◆ AzureAuthenticationAddress
 - ◆ AzureCloudAddress
 - ◆ AzureStorageEndpointStorage

『ユーザガイド』の「[Azure Cloud 用のターゲット IaaS 環境の設定](#)」を参照してください。

- ◆ **AWS:** 次の AWS 設定では、AWS がターゲット Windows ワークロードで Microsoft ソフトウェアライセンスのコンプライアンスを管理するかどうかを設定できます。
 - ◆ AWSActivateWindows
 - ◆ AWSKMSServers
 - ◆ KMSClientSetupKeys

『ユーザガイド』の「[AWS にマイグレートされる Windows ターゲット上の OS ライセンスアクティベーションの設定](#)」を参照してください。

- ◆ **ネットワーキング:** 次のネットワーキング設定では、PlateSpin Migrate でターゲットワークロードにネットワークドライバをインストールするかどうかを設定できます。
 - ◆ EnableLightNetworking
 - ◆ HostNamesForLightNetworking

1.9 PlateSpin Migrate の前提条件のインストールスクリプト

PlateSpin Migrate 12.2.1 では、「PlateSpin Migrate の前提条件のインストール」用の PowerShell スクリプトが提供されています。これを使用して、前提条件ソフトウェアを確認およびインストールしてから、適切な設定 (Visual C++、ASP.NET、IIS、および .NET Framework) を適用することができます。『インストールおよびアップグレードガイド』の「[前提条件ソフトウェアのインストール](#)」を参照してください。

2 非推奨となった機能

PlateSpin Migrate 12.2.1 では、次の機能がサポートされなくなりました。

- ◆ Windows Server 2012 への PlateSpin Migrate Server のインストール。
- ◆ 次のデスクトップワークロードのマイグレーション：
 - ◆ Windows Vista SP 1 以降
 - ◆ Windows XP SP1 以降
- ◆ Hyper-V を使用して Microsoft Windows Server 2008 および 2008 R2 を実行している仮想ホスト上のターゲット VM またはターゲットコンテナへのマイグレーション。

- ◆ KVM を使用する Red Hat Enterprise Server 6.x 上のターゲット VM へのマイグレーション。
- ◆ KVM を使用する SUSE Linux Enterprise Server 11 SP3 上のターゲット VM へのマイグレーション。

3 既知の問題

Micro Focus は、弊社の製品が企業のソフトウェアニーズを満たす高品質のソリューションを提供できるように、常に努力しています。次の問題は、現在調査中です。問題についてさらにサポートが必要な場合は、[Micro Focus のサポートサービス \(http://www.microfocus.com/support-and-services\)](http://www.microfocus.com/support-and-services) にお問い合わせください。

以前のリリースでの既知の問題については、「[以前のリリース](#)」を参照してください。

- ◆ [10 ページのセクション 3.1 「アップグレードに関する既知の問題」](#)
- ◆ [11 ページのセクション 3.2 「Azure へのマイグレーションに関する既知の問題」](#)
- ◆ [12 ページのセクション 3.3 「アマゾンウェブサービスへのマイグレーションに関する既知の問題」](#)
- ◆ [13 ページのセクション 3.4 「Hyper-V へのマイグレーションに関する既知の問題」](#)
- ◆ [14 ページのセクション 3.5 「KVM へのマイグレーションに関する既知の問題」](#)
- ◆ [14 ページのセクション 3.6 「vCloud へのマイグレーションに関する既知の問題」](#)
- ◆ [15 ページのセクション 3.7 「VMware へのマイグレーションに関する既知の問題」](#)
- ◆ [16 ページのセクション 3.8 「一般的な問題」](#)

3.1 アップグレードに関する既知の問題

次の問題は調査中です。

- ◆ [10 ページのセクション 3.1.1 「アップグレード後に初めて Azure ターゲットにマイグレーション用ワークロードを設定する際に、Web インタフェースにリソースグループが一覧表示されない」](#)
- ◆ [11 ページのセクション 3.1.2 「ターゲットクラウドコンテナおよび関連付けられているワークロードがインポートされない」](#)

3.1.1 アップグレード後に初めて Azure ターゲットにマイグレーション用ワークロードを設定する際に、Web インタフェースにリソースグループが一覧表示されない

問題: Migrate サーバをバージョン 12.2.1 にアップグレードした後、アップグレード後に初めて Web インタフェースを使用してワークロードを設定し、Azure ターゲットを選択する場合、[Azure リソースグループ] および [リソースグループ] メニューにリソースグループが一覧表示されません。

解決策: Web インタフェースで [ターゲット] に移動し、ターゲット Azure コンテナを更新して、Azure へのマイグレーション用の設定ページでリソースグループの一覧を有効にします。

3.1.2 ターゲットクラウドコンテナおよび関連付けられているワークロードがインポートされない

問題: データベースをエクスポートした後、アップグレード後のデータをインポートする前にターゲットクラウドコンテナのユーザパスワードが変更されるか有効期限が切れると、コンテナはインポートされず、その関連付けられているワークロード設定がインポートされたデータベースで破損します。Web インタフェースでは、コンテナおよびワークロードが表示されません。Migrate Client では、ワークロードは表示されますが、管理できません。Web インタフェースでコンテナおよびワークロードを手動で再度追加すると、オブジェクトがデータベースにすでに存在するため失敗します。(バグ 1033680)

解決策: ターゲットクラウドコンテナへのマイグレーションに同じ Migrate サーバを使用する場合は、PlateSpin Server を再インストールする必要があります。これにより、データベースがリセットされます。すべてのターゲットコンテナおよびワークロードを再設定する必要があります。

この問題を回避するには、Migrate データベースの資格情報が有効で、エクスポートおよびインポート時にターゲットクラウドコンテナで変更されていないことを確認します。『インストールおよびアップグレードガイド』の「ターゲットクラウドコンテナの有効な資格情報の確認」を参照してください。

3.2 Azure へのマイグレーションに関する既知の問題

次の問題は調査中です。

- 11 ページのセクション 3.2.1「Web インタフェースで一部のクラウドインスタンスサイズがプレミアムストレージをサポートしていないと誤って表示される」
- 12 ページのセクション 3.2.2「RHCK を実行している OL 7.3 UEFI: カットオーバーテストの準備の失敗: [ターゲットマシンの設定サービスがスタートしていないようです]」
- 12 ページのセクション 3.2.3「RHEL 7.3 UEFI から BIOS へのマイグレーションにおける増分レプリケーションが PrepOSToBoot 時に失敗する、grub.cfg の場所を特定できない」
- 12 ページのセクション 3.2.4「Linux ワークロード: ブートおよびルートパーティションは同じディスクに存在する必要がある」
- 12 ページのセクション 3.2.5「PlateSpin OFX コントローラが仮想マシンソース上で起動しない」

3.2.1 Web インタフェースで一部のクラウドインスタンスサイズがプレミアムストレージをサポートしていないと誤って表示される

問題: Migrate Web インタフェースで、Azure Premium Storage をサポートする一部のクラウドインスタンスサイズが、プレミアムストレージをサポートしていないと誤って表示されます。表示エラーが発生するのは、新しく導入されたインスタンスのサイズに対して Azure で命名規則が変更されたためです。PlateSpin Migrate では、プレミアムストレージをサポートしているとしてインスタンスが正しく認識されるため、製品機能に影響はありません。(バグ 1071399)

解決策: プレミアムストレージをサポートしているかどうかを判断するため、クラウドインスタンスサイズの名前を確認してください。インスタンスがプレミアムストレージをサポートしている場合は、2 番目の単語に「S」または「s」が含まれます。たとえば、Standard E64s v3 はプレミアムストレージをサポートしていますが、Standard E64 v3 はサポートしていません。

3.2.2 RHCK を実行している OL 7.3 UEFI: カットオーバーテストの準備の失敗: [ターゲットマシンの設定サービスがスタートしていないようです]

問題: RHCK カーネルを実行している Oracle Linux 7.3 UEFI でカットオーバーテストを準備しているときに、[ターゲットマシンの設定サービスがスタートしていないようです。] エラーが発生して失敗します。ターゲット VM は grub> プロンプトを表示しています。この問題は BIOS 用の RHCK を使用する OL 7.3、または UEFI または BIOS 用の UEK を使用する OL 7.3 では発生しません。このエラーは Azure および vCloud で発生します。(バグ 1067023)

解決策: なし。

3.2.3 RHEL 7.3 UEFI から BIOS へのマイグレーションにおける増分レプリケーションが PrepOSToBoot 時に失敗する、grub.cfg の場所を特定できない

問題: RHEL 7.3 および RHEL 7.3 に基づくディストリビューションの場合、UEFI から BIOS へのマイグレーションにおける増分レプリケーションが、ターゲットマシンでオペレーティングシステムのブートを準備しているときに失敗します。これは grub.cfg 設定ファイルの場所を特定できないためです。このエラーは Azure および vCloud で発生します。(バグ 1066071)

解決策: 失敗した後で、[マイグレーションの実行(増分)] を繰り返します。

3.2.4 Linux ワークロード: ブートおよびルートパーティションは同じディスクに存在する必要がある

問題: Microsoft Azure では、ルート (/) パーティションとは異なるディスク上にブート (/boot) パーティションを持つ Linux ワークロードがサポートされません。(バグ 972062)

解決策: PlateSpin Migrate では、ブート (/boot) パーティションがルート (/) パーティションとは異なるディスク上に存在する場合に、ソース Linux ワークロードの Azure へのマイグレーションがサポートされません。

3.2.5 PlateSpin OFX コントローラが仮想マシンソース上で起動しない

問題: 最初のレプリケーション時にブロックベースのコンポーネントをインストールするように Migrate を設定する場合、ブロックベースのコンポーネントのインストールステップ中にソースワークロード上で PlateSpin OFX コントローラが起動できない場合があります。VM の実行が低速すぎて OFX コントローラの起動イベントがタイムアウトする場合、Service Manager がこの問題をレポートします。(バグ 1033673)

解決策: ソースワークロード上で PlateSpin OFX コントローラを手動で起動します。この問題を回避するためには、最初のレプリケーションではなくワークロードの準備中にブロックベースのコンポーネントをインストールするようにワークロードを設定するか、起動パフォーマンスを向上させるように、ソース VM のメモリと CPU リソースを増やすことができます。

3.3 アマゾンウェブサービスへのマイグレーションに関する既知の問題

次の問題は調査中です。

- ◆ [13 ページのセクション 3.3.1「非デフォルトのディスクレイアウトでインストールされた RHEL 5.x ソースワークロードのマイグレーションが失敗する」](#)
- ◆ [13 ページのセクション 3.3.2「VMware ホスト上の RHEL 5.x ソースワークロードのマイグレーションが失敗する」](#)

3.3.1 非デフォルトのディスクレイアウトでインストールされた RHEL 5.x ソースワークロードのマイグレーションが失敗する

問題：非デフォルトのディスクレイアウトでインストールされた RHEL 5.x ソースワークロードのマイグレートを選択する場合、マイグレーションが失敗します。(バグ 1069738)

解決策：ありません。

3.3.2 VMware ホスト上の RHEL 5.x ソースワークロードのマイグレーションが失敗する

問題：VMware ホスト上の RHEL 5.x ソースワークロードのマイグレートを選択する場合、VMware ツールがソースワークロード上にインストールされていないときにはマイグレーションが失敗します。(バグ 1069538、1069540)

解決策：RHEL 5.x ソースワークロードをマイグレートする前に、VMware ツールがソースワークロード上にインストールされていることを確認する必要があります。

3.4 Hyper-V へのマイグレーションに関する既知の問題

次の問題は調査中です。

- ◆ [13 ページのセクション 3.4.1「1500 未満の MTU 値の設定は、統合アダプタを使用する Hyper-V ホストへのマイグレーションでは無効である」](#)
- ◆ [13 ページのセクション 3.4.2「X2P ワークフローを使用して Windows ワークロードを Hyper-V ターゲットにマイグレートする際のエラー」](#)

3.4.1 1500 未満の MTU 値の設定は、統合アダプタを使用する Hyper-V ホストへのマイグレーションでは無効である

問題：統合アダプタを使用する Hyper-V ホストにワークロードをマイグレートする際に MTU 値が 1500 未満に設定されている場合、設定された MTU 値は無効です。(バグ 1062546)

解決策：なし。これは統合アダプタを使用する Hyper-V ホストでの制限です。

3.4.2 X2P ワークフローを使用して Windows ワークロードを Hyper-V ターゲットにマイグレートする際のエラー

問題：X2P ワークフローを使用して、Windows 2003 または 2008 ワークロードを Microsoft Hyper-V ホストにマイグレートする際にジョブが停止するか、[コントローラのアインストール] ステップで回復可能なエラーが発生します。このエラーが発生するのは、統合サービスドライバが Hyper-V ホストで利用できないためです (バグ 1053168、1062716)

解決策：Hyper-V ホスト上に統合サービスドライバを手動で追加します。[ナレッジベースの記事 \(https://www.netiq.com/support/kb/doc.php?id=7022274\)](#) を参照してください。

3.5 KVM へのマイグレーションに関する既知の問題

次の問題は調査中です。

- ◆ 14 ページのセクション 3.5.1「ブートディスクとして Virtio ディスクを、データディスクとして IDE ディスクを持つ KVM 仮想マシンへのワークロードのマイグレーションが失敗する」

3.5.1 ブートディスクとして Virtio ディスクを、データディスクとして IDE ディスクを持つ KVM 仮想マシンへのワークロードのマイグレーションが失敗する

問題: IDE および Virtio ディスクの両方が VM 上で使用できる場合に、ブートディスクとして Virtio ディスクが設定されている KVM 仮想マシンにワークロードをマイグレートする際に、ワークロードのマイグレーションが [ボリュームの作成とパーティション化] ステップで失敗します。(バグ 1063004)

解決策: KVM VM では、次のいずれかを実行してからワークロードをマイグレートします。

- ◆ IDE ディスクをブートディスクとして設定し、Virtio ディスクをデータディスクとして設定します。
- ◆ Virtio ディスクをブートディスクとして設定し、SATA や SCSI ディスクなどの非 IDE ディスクをデータディスクとして設定します。

3.6 vCloud へのマイグレーションに関する既知の問題

次の問題は調査中です。

- ◆ 14 ページのセクション 3.6.1「RHCK を実行している OL 7.3 UEFI: カットオーバーテストの準備の失敗: [ターゲットマシンの設定サービスがスタートしていないようです]」
- ◆ 14 ページのセクション 3.6.2「RHEL 7.3 UEFI から BIOS へのマイグレーションにおける増分レプリケーションが PrepOSToBoot 時に失敗する、grub.cfg の場所を特定できない」
- ◆ 15 ページのセクション 3.6.3「カットオーバーテスト時にページングファイル割り当ての復元がターゲット上で失敗する」

3.6.1 RHCK を実行している OL 7.3 UEFI: カットオーバーテストの準備の失敗: [ターゲットマシンの設定サービスがスタートしていないようです]

問題: RHCK カーネルを実行している Oracle Linux 7.3 UEFI でカットオーバーテストを準備しているときに、[ターゲットマシンの設定サービスがスタートしていないようです。] エラーが発生して失敗します。ターゲット VM は grub> プロンプトを表示しています。この問題は BIOS 用の RHCK を使用する OL 7.3、または UEFI または BIOS 用の UEK を使用する OL 7.3 では発生しません。このエラーは Azure および vCloud で発生します。(バグ 106 023)

解決策: なし。

3.6.2 RHEL 7.3 UEFI から BIOS へのマイグレーションにおける増分レプリケーションが PrepOSToBoot 時に失敗する、grub.cfg の場所を特定できない

問題: RHEL 7.3 および RHEL 7.3 に基づくディストリビューションの場合、UEFI から BIOS へのマイグレーションにおける増分レプリケーションが、ターゲットマシンでオペレーティングシステムのブートを準備しているときに失敗します。これは grub.cfg 設定ファイルの場所を特定できないためです。このエラーは Azure および vCloud で発生します。(バグ 1066071)

解決策: 失敗した後で、[マイグレーションの実行 (増分)] を繰り返します。

3.6.3 カットオーバーテスト時にページングファイル割り当ての復元がターゲット上で失敗する

問題: 物理から vCloud へのマイグレーションにおけるカットオーバーテスト時に (ソースマシンを SAN からブートする)、ターゲット VM の設定中に次のエラーが発生します。

Restore paging file assignments Failed: Non-critical Error (ページングファイル割り当ての復元に失敗: 重要なエラーでない)

カットオーバーテスト後に、ターゲット VM にページファイルが設定されていません。この問題はカットオーバー時には発生しません。(バグ 1063327)

解決策: なし。

3.7 VMware へのマイグレーションに関する既知の問題

次の問題は調査中です。

- ◆ [15 ページのセクション 3.7.1「ターゲット VM の VM コンソールウィンドウでマウスが機能しない」](#)
- ◆ [15 ページのセクション 3.7.2「PlateSpin OFX コントローラが仮想マシンソース上で起動しない」](#)

3.7.1 ターゲット VM の VM コンソールウィンドウでマウスが機能しない

問題: カットオーバーテストまたはカットオーバー中に、vSphere Web Client の VM でマウスが機能しない場合があります。具体的には、[アクション] > [Open Console (コンソールを開く)] を実行して VMware Web コンソールを開くと、仮想マシンのコンソールウィンドウ内でマウスポインタが正常に機能しません。

解決策: VM を再起動して、VMware Tools にマウスの USB コントローラを認識させます。vSphere で、[アクション] > [Power (電源)] > [Restart Guest OS (ゲスト OS の再起動)] の順に選択します。

3.7.2 PlateSpin OFX コントローラが仮想マシンソース上で起動しない

問題: 最初のレプリケーション時にブロックベースのコンポーネントをインストールするように Migrate を設定する場合、ブロックベースのコンポーネントのインストールステップ中にソースワークロード上で PlateSpin OFX コントローラが起動できない場合があります。VM の実行が低速すぎて OFX コントローラの起動イベントがタイムアウトする場合、Service Manager がこの問題をレポートします。(バグ 1033673)

解決策: ソースワークロード上で PlateSpin OFX コントローラを手動で起動します。この問題を回避するためには、最初のレプリケーションではなくマイグレーションの準備中にブロックベースのコンポーネントをインストールするようにワークロードを設定するか、起動パフォーマンスを向上させるように、ソース VM のメモリと CPU リソースを増やすことができます。

3.8 一般的な問題

次の問題は調査中です。

- 16 ページのセクション 3.8.1 「Migrate Client: サーバの検出解除後、ジョブビューに、サーバの検出解除ジョブステータスが表示されない」
- 16 ページのセクション 3.8.2 「Windows Server 2003 ワークロードのマイグレーションが [オペレーティングシステムの設定] ステップでスタックする場合がある」
- 16 ページのセクション 3.8.3 「Web インタフェースに、検出されたワークロードの編集済みホスト名が表示されない」
- 17 ページのセクション 3.8.4 「Migrate Client で、ターゲットが正常に検出解除されてもターゲット検出解除ジョブでエラーが表示される」
- 17 ページのセクション 3.8.5 「ダイナミックメモリが有効になっている Hyper-V VM へのワークロードの X2P マイグレーションが失敗する」
- 17 ページのセクション 3.8.6 「PlateSpin Migrate Client からワークロードを削除しても、Web インタフェースからワークロードが削除されない」
- 17 ページのセクション 3.8.7 「マイグレーションライセンスが使用できない場合、PlateSpin Migrate Client でのワークロードの検出が失敗する」
- 17 ページのセクション 3.8.8 「ホスト名でソースワークロードを検出する際に、検出された制御下のターゲットがソースと同じホスト名を持つ場合に失敗する」
- 18 ページのセクション 3.8.9 「レプリケーションレポートの電子メール通知にコンテンツがない」
- 18 ページのセクション 3.8.10 「VMware ホスト上の OEL または CentOS 6.x ソースワークロードのマイグレーションが失敗する」

3.8.1 Migrate Client: サーバの検出解除後、ジョブビューに、サーバの検出解除ジョブステータスが表示されない

問題: サーバの検出解除アクションを実行した後、ジョブビューに、サーバの検出解除ジョブのジョブエントリが表示されません。ユーザは、ジョブが正常に完了したかどうかを簡単に判断することができません。PlateSpin Migrate 12.2 では、サーバの検出解除ジョブはジョブビューに表示されていました。(バグ 1071172)

解決策: なし。

3.8.2 Windows Server 2003 ワークロードのマイグレーションが [オペレーティングシステムの設定] ステップでスタックする場合がある

問題: Windows Server 2003 ワークロードのマイグレートを選択する場合、マイグレーションジョブは停止するか、[オペレーティングシステムの設定] ステップで回復不可能なエラーが発生する可能性があります。(バグ 1069833)

解決策: 変換を再開するには、ターゲットワークロードを再起動します。

3.8.3 Web インタフェースに、検出されたワークロードの編集済みホスト名が表示されない

問題: 検出されたワークロードのホスト名を編集する場合、Migrate Client では新しいホスト名が表示されますが、Web インタフェースでは表示されません。(バグ 1042869)

解決策: 検出されたワークロードのホスト名が変更された後で、ワークロードを検出解除してから、再検出します。

3.8.4 Migrate Client で、ターゲットが正常に検出解除されてもターゲット検出解除ジョブでエラーが表示される

問題: Migrate Client を使用して到達不可能な vCenter 上にあるターゲットを検出解除する場合、Migrate Client の検出解除ジョブのステータスが失敗と表示されます。ただし、ターゲットは Migrate Client と Web インタフェースの両方から正常に検出解除されます。(バグ 1062786)

解決策: ジョブステータスメッセージを無視します。

3.8.5 ダイナミックメモリが有効になっている Hyper-V VM へのワークロードの X2P マイグレーションが失敗する

問題: X2P ワークフローを使用して、ソースワークロードをダイナミックメモリが有効になっている Hyper-V VM にマイグレートすると、[Sending and Receiving files (ファイルの送受信)] ステップでマイグレーションが失敗します。(バグ 1064801)

解決策: マイグレーションを実行する前に、Hyper-V VM 上のダイナミックメモリを無効にします。マイグレーション後に Hyper-V VM 上のダイナミックメモリを有効にすることができます。

3.8.6 PlateSpin Migrate Client からワークロードを削除しても、Web インタフェースからワークロードが削除されない

問題: Migrate Client を使用してワークロードを削除する場合、ワークロードが Migrate Client から削除されても、Web インタフェースからは自動的に削除されません。その結果、同じワークロードの再検出が失敗します。(バグ 1061693)

解決策: ワークロードを再検出する前に、Web インタフェースからワークロードを手動で削除します。

3.8.7 マイグレーションライセンスが使用できない場合、PlateSpin Migrate Client でのワークロードの検出が失敗する

問題: ライセンスに使用可能な残りのマイグレーションがないときに、PlateSpin Migrate Client でワークロードの検出を選択する場合、Migrate Client のワークロード検出ジョブの起動に失敗しますが、メッセージは表示されません。ただし、Web Client ではワークロードが追加されます。

クライアントでワークロードを検出できるのは、マイグレーションライセンスが使用可能になった後のみです。同じワークロードを再検出する前に、Web インタフェースからワークロードを必ず削除してください。(バグ 1061694)

解決策: なし。

3.8.8 ホスト名でソースワークロードを検出する際に、検出された制御下のターゲットがソースと同じホスト名を持つ場合に失敗する

問題: ホスト名でソースワークロードの検出を選択する際には、すでに検出されている制御下のターゲットに一致するホスト名がある場合に検出が失敗します(バグ 1061695)。

解決策: ホスト名ではなく、ソースワークロードの IP アドレスを使用して、ソースワークロードを検出します。

3.8.9 レプリケーションレポートの電子メール通知にコンテンツがない

問題: レプリケーションレポートの電子メール通知が受信者にスケジュールどおりに送信されますが、アクティブなマイグレーションで予期したレプリケーション統計がありません。メッセージには [このレポートにワークロードはまだ使用できません] と記載されています。Web インタフェースには、マイグレーションが設定されていること、およびレポート期間中にレプリケーションが発生したことが表示されます。(バグ 1023917)

解決策: なし。Web インタフェースで、ワークロードマイグレーションのレプリケーション統計を表示します。

3.8.10 VMware ホスト上の OEL または CentOS 6.x ソースワークロードのマイグレーションが失敗する

問題: VMware ホスト上にある OEL または CentOS 6.x ソースワークロードをマイグレートする場合、SCSI アダプタタイプが Paravirtual でなく、ネットワークアダプタが VMXNET3 ではない場合にマイグレーションが失敗します。(バグ 1060573)

解決策: SCSI アダプタタイプを Paravirtual およびネットワークアダプタタイプを VMXNET3 に編集して、マイグレーションを実行します。

4 解決された問題

このリリースで解決された問題のリストは次のとおりです。

- [18 ページのセクション 4.1「非デフォルトのディスクレイアウトでインストールされた RHEL 7.2 ソースワークロードをマイグレートできない」](#)
- [19 ページのセクション 4.2「アップグレード後、検出された同じオブジェクトの複数のインスタンスが Web インタフェースに表示される」](#)
- [19 ページのセクション 4.3「準仮想化カーネルを使用する Oracle Linux 5.x を VMware にマイグレートしようとする、設定が失敗する」](#)
- [19 ページのセクション 4.4「PlateSpin Transformation Manager と共に使用する Migrate Server でサイレントインストールがサポートされない」](#)

4.1 非デフォルトのディスクレイアウトでインストールされた RHEL 7.2 ソースワークロードをマイグレートできない

問題: 非デフォルトのディスクレイアウトでインストールされた RHEL 7.2 ソースワークロードのマイグレートを選択した場合に、マイグレーションが失敗しました。(バグ 1032569)

修正: 非デフォルトのディスクレイアウトでインストールされている場合でも、RHEL 7.2 ソースワークロードをマイグレートできるようになりました。

4.2 アップグレード後、検出された同じオブジェクトの複数のインスタンスが Web インタフェースに表示される

問題 : PlateSpin Migrate Client を使用してワークロードとターゲットを検出する際に、同じオブジェクトが Migrate Client の複数のネットワークで検出されている場合、PlateSpin Migrate Web インタフェースには、デフォルトのネットワークで検出済みのオブジェクトのみが表示されます。ただし、Migrate 12.2 にアップグレードすると、複数のネットワークで検出された回数に応じて、検出オブジェクトの複数のインスタンスが Web インタフェースに表示されます。(バグ 977577)

修正 : Web インタフェースおよび Migrate Client インタフェースがアップグレードプロセス中に同期されなくなったため、この問題は発生しなくなりました。

4.3 準仮想化カーネルを使用する Oracle Linux 5.x を VMware にマイグレートしようとする、設定が失敗する

問題 : Citrix XenServer 上で準仮想化カーネルを使用する Oracle Linux 5.x を VMware 上のターゲット VM にマイグレートしようとする、設定が失敗します。(バグ 1001424、1001433、および 1001436)

修正 : このリリースには、Red Hat Enterprise Linux 5.x (32 ビットおよび 64 ビット) および派生したディストリビューションを実行しているゲストオペレーティングシステム上でブートディスク用 VMware の非サポート対象を処理するための解決策があります。

4.4 PlateSpin Transformation Manager と共に使用する Migrate Server でサイレントインストールがサポートされない

問題 : PlateSpin Migrate のサイレントインストールで、PlateSpin Transformation Manager で使用されるイベントメッセージング機能が正しくインストールされませんでした。(バグ 1020689)

修正 : サイレントインストールを実行する前に、予定されている Migrate サーバ上に Visual C++ 2013 をインストールします。『インストールおよびアップグレードガイド』の「[PlateSpin Migrate バッチファイルインストール用の Visual C++ 2013 のインストール](#)」を参照してください。

5 PlateSpin Migrate のインストールまたは更新

12.2.1 のインストールについては、『*PlateSpin Migrate Installation and Upgrade Guide*』の「[PlateSpin Migrate のインストール](#)」を参照してください。

PlateSpin Server に PlateSpin Migrate 12.2.1 サービスパックを適用するには、中間パッチやホットフィックスが適用されているかどうかにかかわらず、PlateSpin Migrate 12.2 がインストールされている必要があります。『*Installation and Upgrade Guide*』の「[Upgrading PlateSpin Migrate](#)」を参照してください。

6 ライセンス情報

新しいライセンスを有効にする方法については、『*ユーザガイド*』の [PlateSpin Migrate 製品ライセンス](#) を参照してください。

7 以前のリリース

以前のリリースに付属していたマニュアルについては、[PlateSpin Migrate 12.2.1 マニュアルの Web サイト](#)で、以前のリリースまでスクロールしてください。

8 Micro Focus への連絡方法

マニュアルを改善するための提案がございましたら、Documentation-Feedback@netiq.com 宛てに電子メールでお寄せください。

特定の製品の問題については <https://www.microfocus.com/support-and-services/> にある、Micro Focus サポートに連絡してください。

追加のテクニカル情報またはアドバイスについては、次の複数のソースを参照してください。

- ◆ 製品ドキュメント、ナレッジベース記事およびビデオ：<https://www.microfocus.com/support-and-services/>
- ◆ Micro Focus コミュニティページ：<https://www.microfocus.com/communities/>

9 保証と著作権

保証と著作権、商標、免責事項、保証、輸出およびその他の使用制限、米国政府の規制による権利、特許ポリシー、および FIPS コンプライアンスの詳細については、<https://www.microfocus.com/about/legal/> を参照してください。

Copyright © 2017 NetIQ Corporation, a Micro Focus company. All rights reserved.